

新中国見聞録

新津市各界友好訪中訪中記

中日友好協会の招きで、
新津市各界友好訪中団(団
長・斎藤新津市長 十九名)
が四月二十五日から五月五
日まで十一日間の日程で

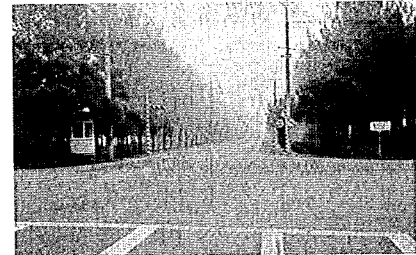
中国で見たこと、聞いたこと、感じたこと



人間であふれている上海の市街地



上海市道義新村(日本の団地にあたる)の保育所



空港から北京市街地へ向かう道路の両側に続く並木

中国を訪問されました。
今号は、訪中団から中国
で見たことなどを寄稿
していただきましたので、
ご紹介します。

中国の第一印象は人の洪水と並木道

四月二十五日午後一時、成田発中国民航機で離陸。上海までわずか三時間である。雲の切れ目からかい間見る中国の大地にさまざまな期待や不安を抱きながら、上海(虹橋)空港に着陸した。春雨の空、周囲は、鮮やかな緑であった。華やかな日本の空港ビルと違い、すべてが質素である。女性の民兵が、何やら案内をしていた。空港から市街地までは延々

と続く並木道である。行き交う馬車、軍用トラック。レンガ造りの農家、土塀をめぐらした民家が散在する。上海の市街地に入って驚いたのは、人の洪水と主要道路の並木である。平日というのに、昼も夜も新津の市内流しの時より混雑している。世界一の大都市とはいえない。人々の波が押し寄せてくる威圧感さえ感じられる。

中、街は人であふれている。自給自足体制の人民公社を訪問。上海では、虹橋人民公社、労働者住宅などを訪問した。人民公社は末端行政組織の一つで、農業生産を中心とした自給自足体制をとっている。牛、豚、鶏の飼育はもちろん、学校、病院、農機具工場、漢方薬店、食堂、日用品店などを経営している。ここでは、農業余剰労働力を吸収するため、背広縫製工場も経営している。従業員六百くらいで月産一万五千着。東南アジアへも輸出しているという。人民公社に属しているある労働者住宅を訪ねた。鉄筋(?)二階建ての四部屋くらいである。主人は上海の工場へ、奥

さんは人民公社の農作業。若夫婦は人民公社の工場で働き、子ども一人の五人家族。両夫妻の寝室、台所など全部見せてくれた。家具調度品は極めて質素でその数も少ない。炊事場(台所)は土間。かまどのようなもの、鍋、釜、食器類が簡単に置かれた入浴設備がある。日本にないのか、風呂も便所もその家にはなく、共同のこと。振り返って見れば、日本でも四、五十年前は同様な生活をしていたのである。しかし中国は三、四十年前まで日本と戦い、国内戦争を経て一九四九年に現在の国家が成立した。解放後、ともかくも衣・食・住が今日のレベルに達したことに大きな誇りを持って、その奥さんは案内してくれたのである。

スケールの大きい歴史的遺産に脱帽

上海から北京へは、空路で約一時間半である。高度八千以上の上空から見る中国の大地には、黄茶色に濁る長江(揚子江)、佐渡がすっぽり入るような湖が点在する。キラリと光る一筋のクリーク(運河)が、果てしなく地平線の上に消える。おそろしく何十あるいは何百と続いているのだらう。とにかく上海から北京までおよそ千キロ余りである。

暑い日射しの北京。空港から市街地まで、ただまっすぐ十六キロも並木道が続く。柳やポプラなどが幾重にも帯状になっており、まさに並木の林である。時折、心地よい風の下で柳絮が舞ってくる。首都北京は、くすんだ古いビルが立並ぶ上海に比べ、威風堂々とゆたかりと、あか抜けた風情を感じさせる。故宮(紫禁城)の建造物や宝物、頤和園、万里の長城、明の十三陵(定陵などを見学したが、そのスケールの大きい歴史的遺産には、感嘆絶頂あるのみ。

中日友好協会の孫副会長と歓談

北京では中日友好協会を訪問した。十年前の日中国交回復で著名な孫平化副会長をつまみ農業、工業、国防、科

五十六の民族十億人の人口

中国はいま、四つの現代化、つまり農業、工業、国防、科

学技術の現代化を急いでいる。最近新しく少数民族が発見され、中国には現在五十六の民族があるという。風俗習慣、気候風土の異なる広大な地域に散らばる十億の民の食糧を確保し、職を与え、住宅を建設することは並大抵のことではあるまい。

北京や上海では古いレンガ造りの民家を取り壊し、高層アパートがどんどん造られていくという。日本と同様、大都市への人口流入と絶対人口の増加が続いている。晩婚奨励と、子どもは一人だけという産児制限運動が進められているといえ、なんといつても十億の人間である。しかし実際、大人の数の割合に、子どもの少なさを感嘆できる。

お買物、ご用命は市内で

ご慶弔・式菓子
新津銘菓 秋葉山 新津の里
里ごころ

御菓子司 (有) 野本
新津市本町一丁目 ハスビル裏 電話 2 0462

メガネの専門店がオープン!
メガネの 野本
新津市本町3丁目(時計店となり)
〒956 TEL 2-2556・2-0070
—野本時計店も新装となりました—



中日友好協会の応接室で孫副会長と歓談する高藤市長



道路の両側にプラタナスの並木が続く南京の市街地



南京市の成賢街小学校で3年生の国語の授業を参観

新津によく似ている南京の周辺
南京は、植生や郊外の風景が新津の近辺に非常によく似

精気に満ちている子どもたちの顔
古都南京も揚州も、緑の深い落ち着いた街である。特に南京は日中戦争で破壊され、現在のうつ蒼たる街路樹は、解放後わずか三十年間くらいで作り上げたものだといえる。今でも、毎年一人五本の植樹を推進していると聞く。素晴らしい杜の都である。

お買物、ご用命は市内で

紙面の都合でほんの断片の事柄であるが、訪中に際し、各方面、各位から寄せられたご好意に対し感謝申し上げ、報告にかえる次第である。
(団長 新津市長斎藤富雄)

お買物、ご用命は市内で

「お話し中」のない電話
キヤンホン
もっとわかりあえる明日へ。お申し込み・ご相談は
新津電報電話局 4-1000(無料)